

2016「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い

アピール

1945年広島市の上空に飛来したB29爆撃機エノラゲイから投下された一発の原子爆弾(リトルボーイ)は広島を破壊しつくしました。かろうじて一命を取り留め今日まで生き抜いてきた被爆者の平均年齢は80歳を超えています。「あの惨劇を二度と繰り返してはいけない、誰にも同じ思いをさせてはいけない」この言葉は、被爆71年を迎える被爆者の切なる願いです。

2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議は、最終文書を合意採択できずに終了しました。議論の過程では、被爆者の悲惨な被爆証言に耳を傾けた多くの国が、人類存亡の脅威として核兵器の非人道性やその廃絶に向けた法的枠組みの必要性を認識し、現在国連の公開作業部会では「核兵器のない世界」の実現に向けた協議が続いています。しかし、世界には、未だ15,000発を超える核兵器が存在し、核保有国並びにその核の傘に入っている国々は、核兵器を抑止力とし、段階的な削減と言い、事実上、核兵器の脅威はそのままの状態にあることは極めて遺憾です。

そのような中、4月にはG7(主要7か国)広島外相会合が開催されました。原爆投下後、初めて核保有国の現職外相が被爆地を訪問し、被爆の実相に触れたことは、意義あることです。しかし「広島宣言」において、核兵器の非人道性について言及されなかった事は、大変残念でした。

明日、オバマ大統領がヒロシマを訪れます。現職の米国大統領の被爆地訪問は歴史的な出来事であり、被爆71年目を迎えるヒロシマから、改めて「核兵器のない世界」の実現へ、力強いメッセージが世界に向けて発信されることを期待します。

本日、ここに集った私たちは、「戦争も核兵器もない平和な世界の実現」を皆さんと誓い合い、以下のことをアピールしたいと思います。

1. 私たちは、核兵器保有国が、ただちに核兵器の実戦配備を解除し、核兵器廃絶に向けた取り組みを進めることを求めます。
1. 私たちは、戦争も核兵器もない平和な世界の実現を願い、思想信条を超えて世界の恒久平和のために取り組みを進めます。
1. 私たちは、世界の指導者を含めた多くの人々が広島、長崎を訪問し、被爆の実相に触れ、核兵器の非人道性と平和の尊さを学ぶ機会が持てるよう取り組みます。
1. 私たちは、核兵器廃絶に向けて活動してこられた被爆者の思いを大切に、次世代につなげるように力を合わせた取り組みを継続します。

2016年5月26日

「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い
実行委員会構成市民6団体